

以前は学校で予防注射の集団接種というのが行われていました。体育館とか広めの教室に集められ、列を作って順番に並びます。やがて「いてえっ」という声やすすり泣きが聞こえ始めます。必ず誰かが「この列の先生は痛いみたいだ」と言い出します。すると医者の息子がしたり顔で言っていました。「先生によるんじゃないかって、針の研ぎが足りないんだよ」と。その頃は注射針も砥石で研いで、消毒して使いまわしていたのだそうです。

今月号の特集は「ウイルス性肝炎を見直す」です。今でも発展途上国に旅行する時などに特に注意が必要なA型、E型肝炎。2016年からワクチンが定期接種となったB型肝炎。抗ウイルス薬の開発が進むC型肝炎。突発性発疹のHHV-6やRSウイルスなどでも起こり得る肝炎。そして2022年になって突然世間を騒がせたことで記憶に新しい小児の原因不明の肝炎。それぞれ診断や治療の知識をアップデートしていただければと思います。そして肝炎のみならず、肝疾患の最終病態である肝不全に対して血液浄化療法、さらに肝移植が行われます。その現状についても解説いただいています。

「綜説」は睡眠不足症候群（ISS）についてです。睡眠不足はよろしくないに決まっていますが、ことはそれほど簡単な話ではありません。ICD-11から正式に睡眠-覚醒障害の章が新設されたことでもわかるように、現代における重要な問題です。適切な

診断・治療と予防のために必要な知識は小児科医にとっても必須といえるでしょう。

「社会小児科学」では、どちらも近年制定された保育基本法、脳卒中循環器病対策基本法について、実は成人期の重要疾患を根本的に見直すには小児期からの健康管理が重要であるという観点から述べておられます。

「小児保健」では、2020年までにはほぼ全国の市区町村に設置された子育て世代包括支援センター（法的には母子健康包括支援センター）の役割と今後についてご解説いただきました。

「症例」はヤギからの感染が疑われたHUS症例、舌偏位を伴った脊索種の症例、ビタミンD欠乏症、先天性CMV感染症、グアンファシン（ADHD治療薬）の過量服用例の5篇です。「目で見える小児科」は眼瞼下垂の写真が印象的な重症筋無力症の症例です。どれも非常に興味深い報告です、是非ご一読ください。

予防接種によるB型肝炎、血液製剤によるC型肝炎は、どちらも医療由来の社会問題でした。補償制度はできましたが、このような不幸は繰り返してはなりません。もっとも、いまだに戦争という不幸を繰り返している馬鹿な人類ではありますが、2023年は平和な年になって欲しいものです。

（伊藤 保彦）

編集：伊藤保彦・中西敏雄・岡部信彦・清水直樹・高橋孝雄（ABC順）

小児科

第64巻 第1号 1月号

2023年1月1日発行（毎月1回1日発行）

定価3,190円（本体2,900円＋税10%）

年間購読料金

定価48,950円（本体44,500円＋税10%）

〔年間13冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14

Tel 03(3811)7165〔雑誌部直通〕

Tel 03(3811)7184〔営業部直通〕

Fax 03(3813)0288

www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 Tel 06(6941)5600

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。